

私と水泳

宮城県仙台市立南中山中学校

二年 菅 井 悠 香

スタートの合図でスタート台に立ち、まっすぐ前を見て大きく深呼吸をした。会場が一瞬にして静寂に包まれる。「私ならできる。自分を信じて最後まで泳ぎ、夢の舞台への切符を掴み取るんだ。」体中の神経を一点に集中させた。そして、飛び込んだ。「絶対にあきらめるもんか。」と無我夢中で水をかいた。いつも遠くに感じたゴールがとても短く感じられた。チームメイトの歓声が聞こえ、隣の選手から、「おめでとー。」

と声をかけられた。

信じられない気持ちで電光掲示板のタイムを何度も確認した。言葉にならない満足感がわきあがり、小さくガッツポーズをした。

「ついにやったんだ。今まで頑張って続けてきて良かった。今までの努力はこの日のためにあったんだ。」

私が初めてスイミングに出合ったのは一歳八カ月の時だ。私は生まれた時から体が弱かった。友達の話もあり、小児ぜんそくを改善するためにベビースイミングを始めたそうだ。私は顔に水がかかるのが嫌で最初の頃は泣き回して暴れ回りプールに入らず、母とおもちゃ遊びの日々が続いた。それでも、「またおいでねー」

と、笑顔で声をかけてくれた優しい先生のおかげで徐々に慣れていった。いつの頃からか、みんなとプールに入れるようになり水も怖くなくなっていた。

小学三年生の時、選手育成コースになった。もっとうまくなりたいという気持ちと、友達と一緒に楽しく泳ぎたいという気持ちが私の心の中で揺れ動いていた。友達と泳ぐのが楽しくてたまらず、練習中のおしゃべりが多く、コーチの話を聞いていないこともあった。母は競泳の世界は厳しそうだから、このまま楽しく泳いでくれればいいと思っていたが、続けるうちに自然と競泳の道へと進んだ。

選手コースに入って、水泳中心の一週間になった。入った頃は練習がきつくて抜け出したり、自分でも気づかずサボったりするようになってタイムも伸び悩んだ。けれど、そんな私にコーチは、

「毎日100%の力で泳いでいれば、一カ月後は同じ練習が80%の力でできるようになる。日々の積み重ねこそが大事なんだ。」

私のことを励ましてくれるコーチに感謝の気持ちを込めて、どんなにきつい練習でも乗り越えた。タイムが上がって今までは違う大会に出られるようになり、私はますます競泳にのめりこんだ。

中学生になり初めての中総体。私はとても緊張し、思うような結果が出せず、初めて敗北感を味わった。中学三年生の強さ、最後の大会にかける想いを知り、自分はまだまだ練習が足りないと感じることができた大会になった。また、やる気が出ずランプに陥り水泳をやめたいと思うこともあったが、やめようと思うほど水泳が好きなんだという気持ちに改めて気づかされた。

私にとって水泳とは、生活の一部であり、なくてはならないものだ。水泳は自分との戦いだ、同じ目標を持って練習に取り組みライバルと刺激し合い、

支え合い、励まし合う団体競技であるともいえる。水泳で集中力、精神力、強い体を得ることができたが、一番は人との縁が大事だ。大会では積極的に話しかけられるようになり、友達がたくさんできた。楽しいことや悲しいこと、つらいこと、いろいろなことがあるけれど、私は水泳が好きだ。こんなに大好きで夢中になれるものと出合えて私は幸せだと思う。

私が水泳を通して大切にしていることは二つある。まず、感謝の気持ちを忘れないことだ。個人競技ではあるけれど、いろいろな人のサポートのおかげで私は水泳を続けていられるのだ。どんな時でも私を励ましアドバイスをしてくれるコーチ、同じ目標を持って練習に取り組み、私に元気を与えてくれる仲間たち、毎日スイミングクラブまで送迎し、私を支え応援してくれる父と母、大会会場で大声を出して応援してくれる弟、遠くまで来て私の泳いでいる姿を見てくれる祖父祖母など、たくさんの人々に助けられてきた。私の心はみんなへの感謝の気持ちであふれている。この気持ちを忘れずにこれからも泳いでいきたいと思う。もう一つは、水泳を楽しむことだ。これは今の私の目標であり、これからの目標でもある。タイムが伸び悩んでも水泳が楽しいということをお忘れなければ、どんなことでも乗り越えられると、私は信じている。水泳は生涯スポーツと言われるので、私の身近にも水泳を楽しんでいる先輩がいる。その先輩のように生涯水泳を楽しみたい。泳いで泳いで泳いだ夏、私の挑戦はまだ続く。